



ケアする人のためのプロジェクトデザイン 地域で「何かしたい!」と思ったら読む本

著：西上ありさ
発行：医学書院
定価：2750 円（本体 2500 円＋税 10%）

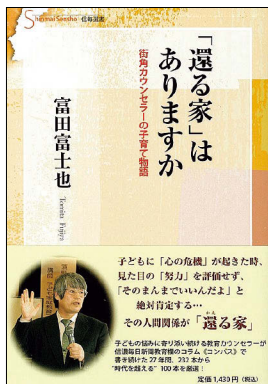
地域保健活動や地域包括ケア，社会的処方など，さまざまな地域で活躍するケアの専門家の活動を支援してきたコミュニティデザイナーが，それらケアの専門家の活動を「プロジェクト」と捉え，アイデアづくりから仲間集め，企画化，広報，実践と成果物の作成までの一連の流れを，「プロジェクトデザイン」として事例を用いて解説する。



ポストコロナ時代の「通いの場」

編：近藤克則
発行：日本看護協会出版会
定価：2640 円（本体 2400 円＋税 10%）

外出や運動，交流の機会を作り出し，健康増進・介護予防を図るとともに，コミュニティの（再）構築を促す取り組みとして，コロナ禍で改めてその重要性が明らかになった「通いの場」。人口 1 万人以下の小さな町から大都市まで，10 以上の市町村の具体的な取り組み事例を紹介し，ポストコロナ時代の「通いの場」のあり方を考える。



「還る家」はありますか 街角カウンセラーの子育て物語

著：富田富士也
発行：信濃毎日新聞
定価：1430 円（本体 1300 円＋税 10%）

子どもに「心の危機」が起きたとき，ただ話を聞き，ただうなずき，存在していることを「そのまんまでいいんだよ」と絶対肯定する。著者はこの人間関係を「還る家」のある関係と呼び，30 年以上，子どもや親の悩みに寄り添いながら相談活動を続けている。その間のさまざまな事例や経験を綴った新聞のコラムから「時代を超える」100 本を厳選した。

手軽な
+1



保健所の「コロナ戦記」 TOKYO2020-2021

著：関なおみ
発行：光文社
定価：1210 円（本体 1100 円＋税 10%）

2020 年から 2021 年に保健所と東京都庁の感染症対策部門の課長という立場で新型コロナウイルス感染症対策の第一線に立っていた著者が，第 1～5 波ごとに当時の現場の状況や課題をまとめた「COVID-19」との闘いの記録。